

令和6年度 学校評価報告書

教育方針	重点目標 (学校(各部))	担当 分掌	学校評価質問項目	4 段階 評価			自己評価 結果概評	学校関係者評価		改善策	
				教員 評価	生徒 評価	保護者 評価		評価 (昨年)	コメント		評価 (昨年)
次世代を担うすぐれた社会に資する有為な形成者としての知性、高い人権意識、健全な心身の平和を養う。に寄与できる	(1) 学力の向上 (教務)	教務	補習授業や指導方法の改善を図る。	B 2.8	A 3.2	B 2.9	・資格取得状況はやや伸び悩んでいる。基礎学力に課題をもつ生徒が増えているように見受けられる。その対策として、スタディサプリを活用している。活用方法は手探りであるが、生徒自身が自走でき、自らの課題に取り組む雰囲気を作れるような仕掛けが必要である。	・補習授業等を行い、基礎学力に課題をもつ生徒には自ら取り組もうとする意欲の手助けをされている。資格検定の取得率はすばらしいと思います。 ・学力の低い生徒に定期的に補習を行い、向上を図る。資格検定に対応した授業を計画して取得、合格に励ませる。 ・先生方の根気強い教育指導により、遅ればせながらではあるが今年度後半は学習に対する意識と習慣が見られた。	A (A)	・スタディサプリの有効活用 今年度から、朝学習において、個別の課題に取り組み、基礎学力の向上に役立てようとしている。2学期までに、運営担当の教育研究部と連携しと共通教科の授業内での活用の検討する。	
			資格・検定情報を提供し、取得のための指導を積極的に行う。	A 3.4	A 3.2	A 3.2					
	(2) 進路実現力の向上 (進路)	進路	「進路だより」等による地元企業の情報提供の充実を図る。	A 3.2	A 3.2	A 3.2	・進路だよりや企業見学(1年生)、インターンシップ(2年生)、出前授業等を通じ、地元企業の情報の提供に努めた。また、進路ガイダンス(3年生)やキャリアガイダンス(2年生)を開催し、生徒への情報提供にあわせて、学校と地元企業との連携の深化を図った。この他、各教室に設置の上級学校の進学雑誌の充実にも努めている。生徒との個別面談や三者面談の充実を図るため、進路希望調査を学期毎に実施し、生徒の進路意識を高めながら、家庭での対話を促した。担任・学年部・各科へ、企業や上級学校の情報を適宜提供し、面談の際の一助とした。場合によっては、進路部で直接生徒面談を行うなどした。今後はさらに、企業や上級学校の情報を生徒、保護者、担任等へ周知することで、個別面談や三者面談の充実を図り、生徒の進路実現の手助けをしていきたいと考えている。	・進路だより、出前授業等をされ、地元企業の情報提供進路希望調査など、きめ細やかな指導に感じます。必要な情報が適宜提供され、生徒の進路選びの手助けになっている。 ・就職、進学への取り組みができています。引き続き地元企業に注力してほしい。 ・子供の伝え方の問題かもしれないが、保護者として企業、上級学校の情報に触れる機会はあまりなかった。	A (A)	・今年度、3年生進路ガイダンスでは保護者の皆様にもご案内しましたが、次年度は2年生企業ガイダンスを行う際にも保護者の皆様にもご案内し、保護者の皆様ガイダンスに参加していただける機会を増やします。また、今年度は上級学校に関する進路情報冊子など生徒を通じてご家庭にも配付させていただきましたが、次年度以降も引き続き行います。また、企業見学やインターンシップなどを通じ地元企業様とのかかわりを増やしたり、進路講演会など様々な進路行事を行ったりし、生徒の進路実現に向けての一助になるよう進路部として様々な企画に取り組みます。	
			個別面談・三者面談の充実を図る。	B 3.0	A 3.2	B 3.1					
	(3) 体験活動の推進	生徒	ボランティア活動や地域交流活動への参加を図る。	B 2.8	B 3.0	B 3.1	・地域交流活動への参加については、昨年度以上に文化祭、課題研究、部活動等を通じて公民館、幼稚園、市内小学校と連携を図っていた。しかし、教員評価が生徒・保護者評価に対して低かった。実施はしているため、校内の周知や実施後の活動報告が皆様に伝わる手立てを検討したい。	・地域との交流、ボランティア活動はとても良い。自分ではできない電球の取り替え等の小さなボランティア活動も周知されては！ ・できるだけ多くの生徒が活動に参加するように取り組んでもらいたい。 ・子供を通してのみならず、マスコミ等も通じて活発な活動が伝わってきた。	A (A)	・地域交流事業は、各科で徐々に活発になりつつある。地域へ出かけて工業高校の魅力を発信するチャンスだと考えている。今後できるだけ多くの生徒が活動に参加できるように取り組み、報道等も利用しながら情報発信を続けていきたい。	
			礼節・規律・生活習慣の確立(生徒)	B 3.1	B 3.1	B 3.1					
	(3) 部活動の推進 (生徒)	生徒	学校生活における礼節とマナーの定着を図る。	B 3.1	B 3.1	B 3.1	・日常的な指導の継続により、頭髪・服装・挨拶について一定の成果に繋がっている。引き続き指導を続けていく。ただ一部に不適切と思われる生徒がいるのも事実。事情がある生徒については異装届等出させて教員間で情報共有する必要がある。違反と知りながらまたは「自分だけじゃない」の言い分で改善しない生徒については継続して指導していくしかない。昨年度と同様にルールを守り、自分の誤りを正せる生徒を育てたい。	・校内で出会う生徒の皆さんから気持ちの良い挨拶が返ってきます。服装等も良いと思います。 ・マナーが少し低下している。日頃の指導を徹底する。 ・全体として良好と感じる。特に挨拶に関しては皆が気持ち良くしてくれた(学校訪問時)。	A (A)	・学校内での挨拶はとても好感が持てる。元気の良い生徒が多く、まわりに良い影響を与えているので継続していきたい。 頭髪服装に関しては今後も指導を継続していく必要がある。指導されている時だけ乗りきれればよいのではなく、普段から身なりを整えられりことを意識できるように、教員主導ではなく、生徒主体で改善策を考えられるような組織づくりを検討したい。	
			部活動を奨励し、健全な心身の育成を図る。	A 3.3	B 3.1	B 3.1					
	(3) 人権教育、インクルーシブ教育の推進	人権	校内研修等で得た情報や知識を常に心がけ、人権に配慮した発言・指導を行う。	B 2.9	B 3.0	B 3.1	・教職員研修は、人権教育指導資料や同和教育指導資料を活用して行うことができた。生徒対象の人権教育も、各学年会が主体となってHRを実施できた。	・研修や人権教育がなされており、これからも継続して行われますように。 ・積極的に生徒向けにイベントや行事を実施してほしい。 ・詳しく知ることができないが、少なくとも自分の周りで問題になる話は聞いた事がない(評価が難しいです)。	B (B)	・保健相談部等と連携して、生徒向けの講演会やイベントを考えたい。LGBTQに関する講演などを検討してもよいのではないかな。	
			特別支援教育の充実(保健)	B 3.0	B 3.1	B 3.1					
	(4) 積極的な情報発信 (総務)	総務	HP・広報活動が十分に行われている。	B 3.1	A 3.1	B (B)	・HPは各科・各部活動・分掌等において生徒たちの日々の授業風景や資格取得への取り組み、大会結果、学校行事等を提供してもらい、更新することで積極的に情報発信をすることができた。さらに学校の魅力をアピールしていける内容となるように、関係各所との連携を深め充実させたい。緊急メールによる臨時休校や学級閉鎖、時程変更等の緊急連絡は適切に行われたが、改善点を明らかにして問題解決に努めたい。	・学校行事や取り組みを更新し、情報発信されている。緊急メールもその時に応じて行われてよいと思う。 ・学校の魅力が感じられるHPづくりをする。 ・HPは比較的にこまめに更新されているが、一部未更新のページもあり。広報活動については生徒達の活躍もあるが、積極的に発信されており好印象。今後も積極的に発信していきたい。緊急情報良好。	A (A)	・学校行事や部活動報告、日々の授業風景や地域の人々との交流等、生徒が学校内外で活躍している姿を、ホームページなどを通して様々な方面に積極的に発信したい。未更新のページにおいても、総務部で働きかけをしながら、松江工業高校の魅力をさらに高める努力をしていきたい。	
			HPや緊急メールにより緊急情報が適切に連絡されている。	B 3.1	A 3.4						
(4) ICT活用能力の育成	教務	積極的にICT機器を使った授業等に取り組んでいる。	A 3.2	A 3.2	A 3.2	・公開授業においては、ほとんどがICT機器を活用する形式の授業の実践がなされている。特に、以前と違って、ICT機器を生徒が活用する場面も多く見られた。これらの実践の教員間での共有をさらに図りたい。 ・グランドデザインの育む力と重点目標にある「自分の考えを伝える力」の育成を各授業でも意識している。生徒同士の対話の頻度を増やしたり、対教員との対話においても、生徒の意見を粘り強く引き出すなどの取り組みは広がっているが、自分の意見をまとめる力などが不足しており、まだ深い理解にはつながっていない。今後の課題である。	・ICT機器を活用する授業が熱心に行われている。機器を使うことが目的ではなく、集中力や読み書きの能力が減退しない様、生徒の力を伸ばすために活用できたらよいと願っています。 ・ICT機器の活用も順調に習慣づいてきている。 ・ICT機器の活用については少しずつ広がっていると認識している。実際の現場等見た事がない生徒達にとっては大切なツール。アナログのいい面とのバランスを取りながら取り組んでいきたい。また、先生間でもバラツキがない様にして欲しい授業改善の取り組み等も通じて情報共有して欲しい。	A (B)	・情報活用能力を育成するための意義の周知 すでに、資格試験もパソコンを利用してのものが増えている。今後、生徒が社会に出たのち、スキルアップをしていく過程でパソコン等を活用できる能力は必須である。生徒が社会に出て困らないためのものであることを、年度始めや、公開授業旬間等に周知する。		
		わかる授業など授業改善に取り組んでいる	B 2.9	B 2.9	B 2.9						

アンケート調査結果(数値1~4で回答)の平均値による区分 ※0:わからないは除く (4:よく出来ている 3:大体出来ている 2:あまり出来ていない 1:出来ない 0:わからない)